

韓国環境部 2020年8月27日 プレスリリース

江原道春川市の野生イノシシから ASF ウイルスを検出

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1393270&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

▷調査・捕獲強化、フェンス点検などの周辺地域拡散ブロック

環境部(長官ジョミョンレ)は、江原道春川市史北面吾灘里の広域フェンス内で発見されたイノシシの死体1体から ASF ウイルスが検出されたと発表した。

死体の発見地点は、最近 ASF 陽性が確定された華川郡龍潭里と原川里から直線距離で約 7km 離れており、南約 7km に華岳山区間広域フェンスが設置されている。

*最近龍潭里 7月17日、原川里 8月12日に検出

春川市は、野生イノシシ ASF 標準行動指針に基づき、試料を採取し、現場の消毒と死体の埋却を完了させた。

環境部は、この地域のフェンス区間の周辺には民家、農地が多く、北の頭流山、長群山一帯から拡散してきたものと推定しており、具体的な伝播経路については、発見地点周辺死体の調査、環境調査などを通じて、より細かく把握する予定である。

環境部は、春川市の野生イノシシから ASF ウイルスが初めて検出されたことを受け、周辺地域への拡散を遮断するための強化された防疫措置を実施する。

まず、感染イノシシの移動を遮断するために、既存の広域フェンスの瑕疵の有無、フェンスの扉の開閉状態などをすぐにチェックし、脆弱区間を発見次第、直ちに補強する。

また、フェンス管理員を常駐させ、フェンスの扉が常に閉鎖されるよう確認する。

感染拡散範囲と死体の有無を確認するため、春川史北面一帯(5里)と広域フェンス外である春川梧月里及び加平郡華岳里の調査人員 15 人を投入し、集中調査する。

*吾灘里、円坪里、新浦里、芝岩里、芝村里

発生地点近くの橋やフェンスの扉などの拡散の懸念がある区間は箱罾(22)とくくり罾(100 個)を

集中設置し、専任の管理員 8 人を配置して安定的に個体数を低減する。

車両・人によってウイルスが伝播されないように華川史内面と春川史北面で活動した猟師の位置追跡システム(GPS)情報を活用し、履歴を管理して、捕獲用具の消毒状態をチェックするなど、防疫管理を強化する。

農林畜産食品部は、春川の発生地点から半径 10km 内の養豚農家 1 戸の移動制限と精密検査を実施し、毎日電話予察や農場周辺道路、進入路を消毒するなどの管理を強化する。

以上